

## 第23回教育研究審議会

### 議事概要

日時 令和2年3月25日(水) 午後1時10分～午後3時25分

場所 本部棟3階 大会議室

出席者 福田誠治学長、阿毛久芳副学長、深澤祥邦事務局長、小林重雄理事、竹島達也大学院研究科委員長、西尾理学長補佐、加藤めぐみ学長補佐、平野耕一学長補佐、樋口雄人学長補佐、加藤敦子国文学科長、Hywel Evans 英文学科長、山本芳美比較文化学科長、原和久国際教育学科長、鳥原正敏学校教育学科長、春日尚雄地域社会学科長、野中潤図書館長(兼)情報センター長、廣田健教職支援センター長、竹下勝雄地域交流研究センター長、茂木秀昭国際交流センター長、豊嶋朗子語学教育センター長、市原学入学センター長、矢嶋亘総務課長、石川和広経営企画課長、藤江隆学生課長

欠席者 新保祐司副学長

オブザーバー 杉本光司教授、田中昌弥教授、学生課保健センター担当中村リーダー、学生課教務・教職担当上野リーダー

福田学長より挨拶

## 2 議 事

(1) 新型コロナウイルスに関する本学における授業等の対応について

○担当者1及び担当者2より資料1-1から資料1-5に基づき説明。

→審議の結果、提案の通り承認。

→2週間の経過観察期間について学内を完全にシャットアウトしないものとなっているが不安である。

→1年生はPCの所持なども不明であり早めに教員と一度は話をする機会を設けた方がよい。

→1年生の健康診断を前倒しできるか委託業者に確認をしたが日程調整が不可能である。

→1年生への連絡方法については学籍番号が付されるため学内サイトでの情報共有等を想定している。

→コロナウイルスの特徴として若者では無症状の場合があることなどからも2週間の経過観察期間は学内を完全にシャットした方がよいのではないかと。

→学生たちが2週間の経過観察期間に外出しない保証はなく、1年生については初めての一人暮らしの者も多くメンタル面が不安である。

→学内に学生を入れる入れないは別として、インターネット上でも構わないので教員と学生の連絡方法については確実にできるような体制を構築しなければならない。

→語学では1年生に対してeラーニングが活用できる。

→学生に対する感染の可能性の議論に集中しているが、他大学の発症事例などからも通勤を伴う教員の心配をする必要もある。

→Zoomなどのコミュニケーションツールの活用が有効である。

- 履修に関するQ&Aの作成などに取り掛かっており、接触機会をできるだけ減らす可能性を模索している。なお、学生のWi-Fi環境が不明であり不安である。
- 図書館の開館などについてはどのように考えているか。
- 図書館については、リスクを減らしたうえでの開館を検討している。
- 本学の学内立入の完全シャットアウトは現実的に不可能であることなどから、図書館の開館などにより居場所を限定させWi-Fiの利用などもできるようにした方が良いのではないか。下宿先での2週間待機は学生のメンタル面が特に不安である。
- 施設管理の立場から学内施設の使用方法を限定し学生の居場所確保を検討した方が良く考えている。
- 4月からの新執行部が本提案を基に進めていくことになるため、新型コロナウイルス感染症に対する対策本部を新体制メンバーで立ち上げる。

(2) 大学院 非常勤講師の担当科目コマの発議・提案について (文学研究科 比較文化専攻)

○担当者から資料2-1に基づき「非常勤講師担当科目コマの発議・提案」について説明。

→提案通り承認。

◇比較地域文化論Ⅱ (欧米文化)

◆専任教員の退職による

○担当者から資料2-2に基づき「非常勤講師採用候補者に係る資料」について説明。

→提案通り承認 (予定1年間)。

◇日本国際政治学・ジェンダー史学

新規採用 ランク A

(3) その他 ○なし

3 報 告

(1) その他 ○なし

4 その他 ○なし

5 閉 会

以 上